

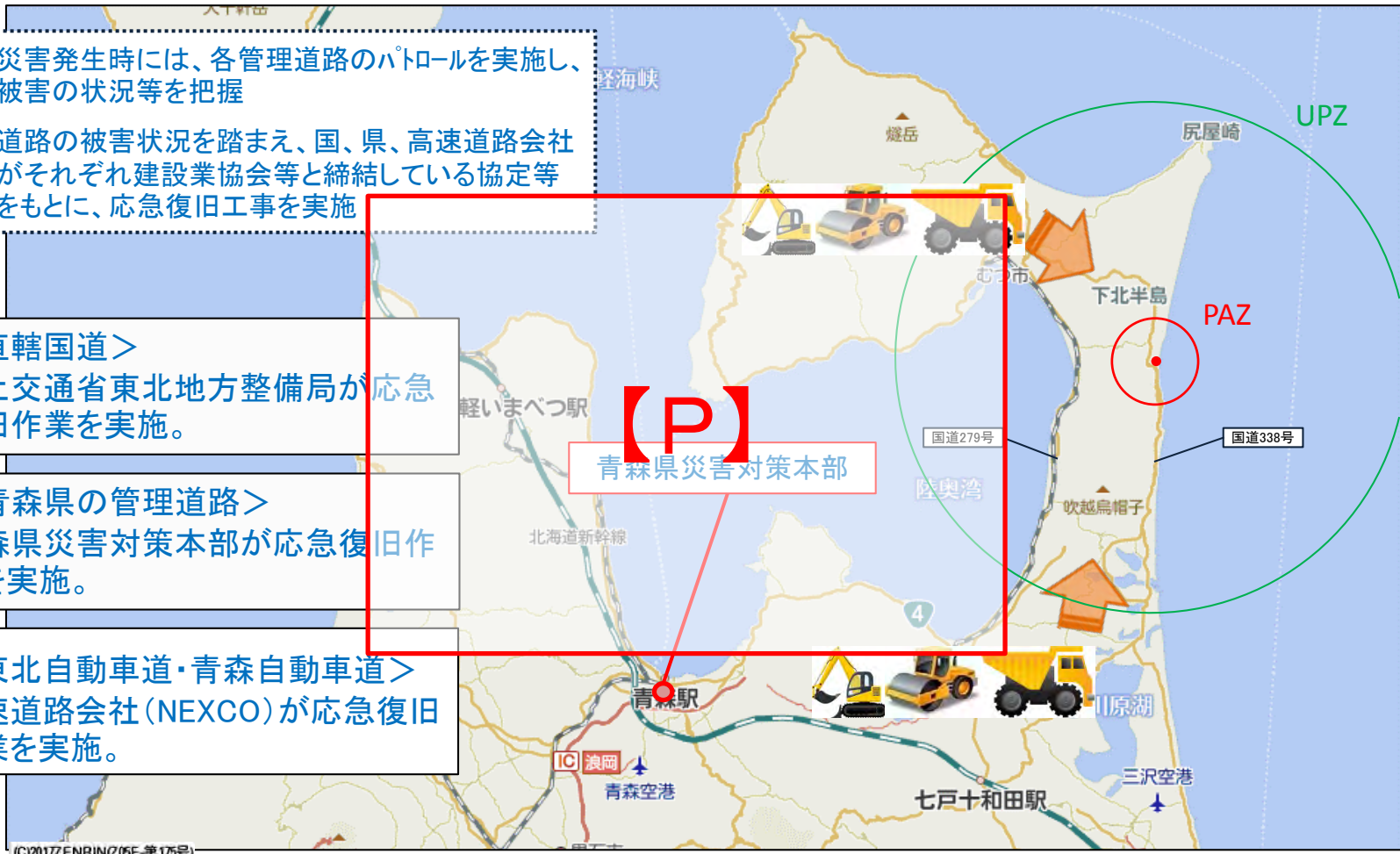
- 避難開始前の段階で、避難計画で避難経路として定められている道路等が、自然災害等により使用できない場合は、青森県及び東通村は、代替経路を設定するとともに、道路等の管理者は復旧作業を実施。【P】
- 直轄国道及び高速道路については、国土交通省東北地方整備局及び高速道路会社（NEXCO）が、早急に被害状況を把握し、迅速かつ的確な道路啓開、仮設等の応急復旧を行い、早期の道路交通の確保等に努める。【P】

- 災害発生時には、各管理道路のパトロールを実施し、被害の状況等を把握
- 道路の被害状況を踏まえ、国、県、高速道路会社がそれぞれ建設業協会等と締結している協定等をもとに、応急復旧工事を実施

＜直轄国道＞  
国土交通省東北地方整備局が応急復旧作業を実施。

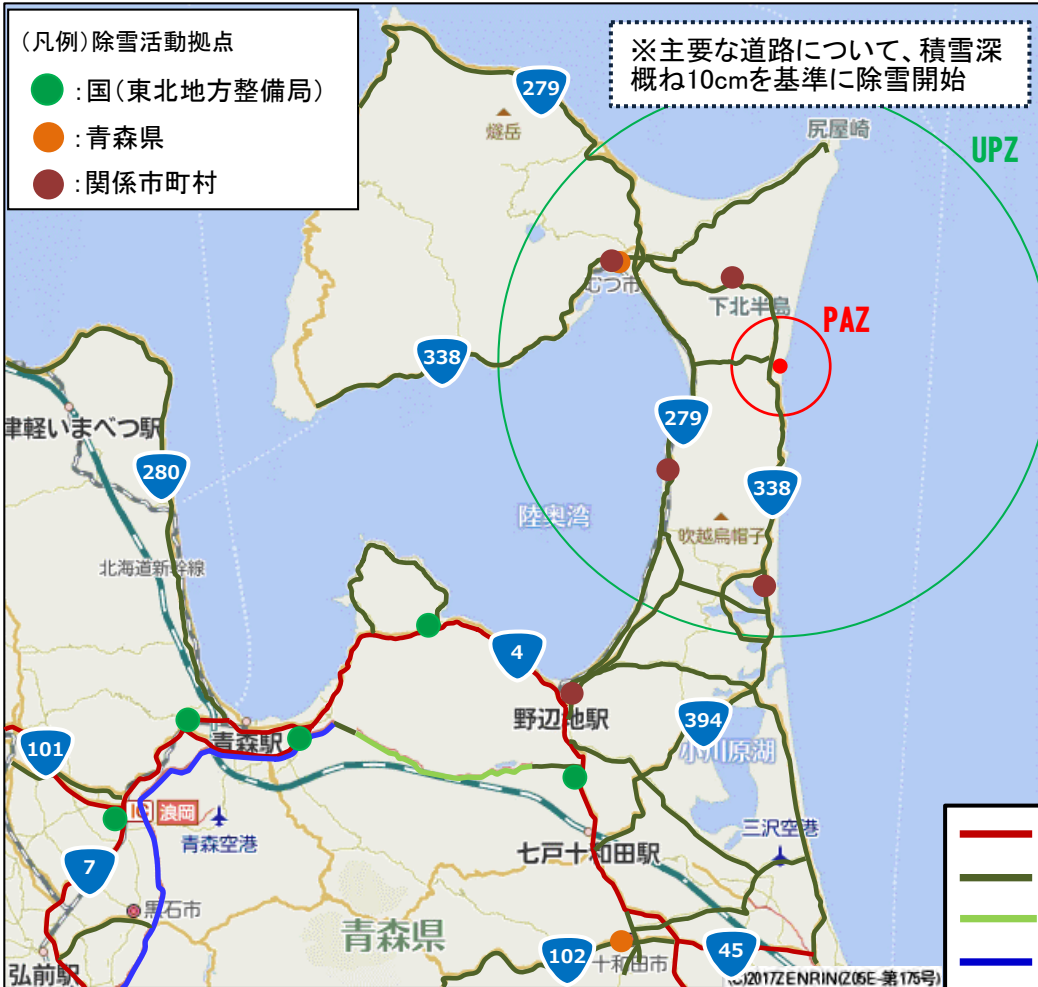
＜青森県の管理道路＞  
青森県災害対策本部が応急復旧作業を実施。

＜東北自動車道・青森自動車道＞  
高速道路会社（NEXCO）が応急復旧作業を実施。



# 降雪時の避難経路の確保【P】

- 青森県は地域防災計画に基づき毎年度除雪事業計画を定め、路線の重要性等を考慮してあらかじめ除雪路線を設定し、当該路線毎の除雪作業目標に従い、適切に除雪を実施。
- 直轄国道及び高速道路については、国土交通省東北地方整備局及び高速道路会社(NEXCO)が、除雪体制の強化を図り、各関係機関の緊密な連携の下、各機関の除雪計画に基づき適切な除雪、凍結防止等の対策を行い、冬期間の交通の確保等に努める。



除雪機械(例)



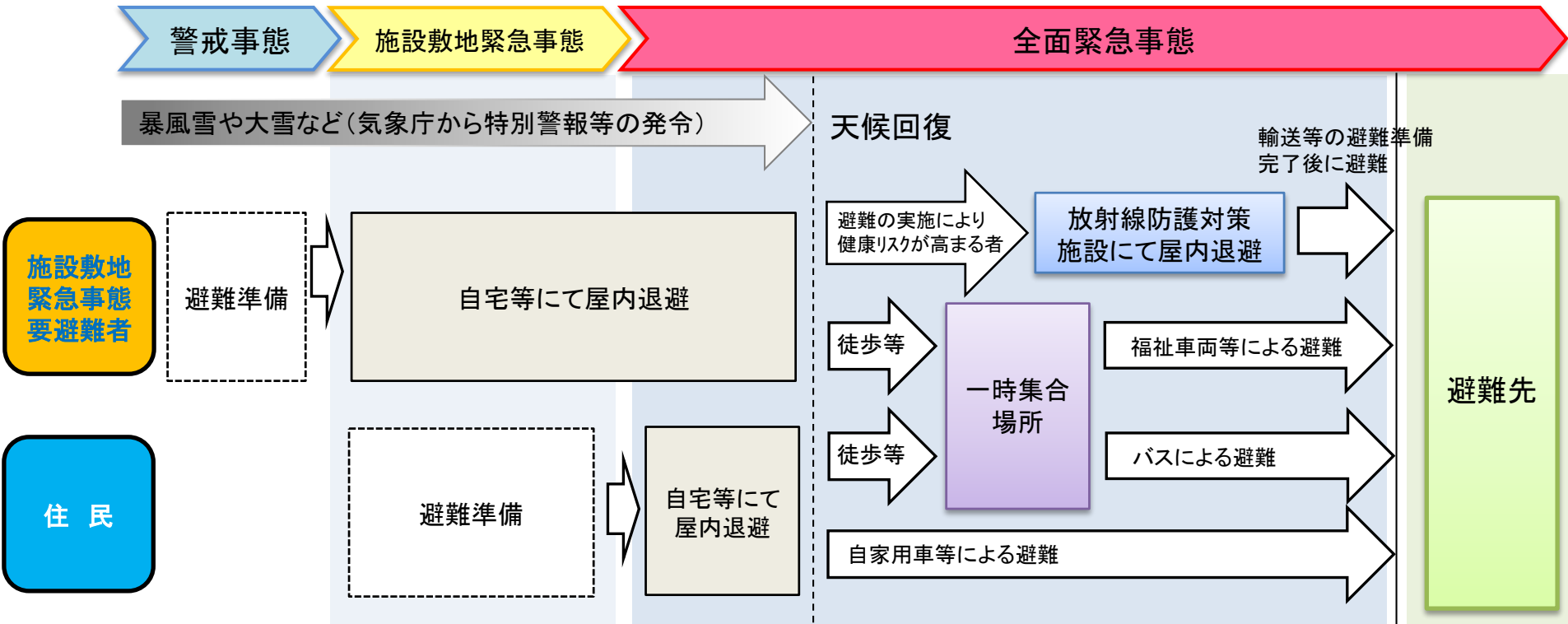
原子力災害対策重点区域5市町村を中心とした除雪機械の配備台数		ひがしどおりむら うち、東通村
国(東北地方整備局)※1	69台	—
青森県	67台	9台
関係市町村	59台	9台
民間	397台	26台
青森県道路公社	3台	—
高速道路会社(NEXCO)※2	32台	—

※1 青森県内の配備数  
 ※2 東日本高速道路(株)東北支社青森管理事務所の保有台数  
 ※3 台数は平成28年4月30日現在

- 国道4号、7号、45号、101号(国)
- 国道102号、279号、280号、338号、394号、県道(青森県)
- みちのく道路(青森県道路公社)
- 青森自動車道、東北自動車道(高速道路会社(NEXCO))

- 暴風雪や大雪など、気象庁から特別警報等が発令された場合には、外出を控える等の安全確保を優先する必要があるため、PAZ内の施設敷地緊急事態要避難者及び住民は、天候が回復して安全が確保されるまでは屋内退避を優先し、天候回復後に避難を実施。また、避難の実施により健康リスクが高まる者は、輸送等の避難準備が整うまで近傍の放射線防護対策施設にて屋内退避を実施。
- なお、全面緊急事態となった段階で天候が回復し、避難を実施する際には、国及び青森県等は、避難経路や避難手段のほか、国が提供する原子力発電所の状況や緊急時モニタリングの結果、気象情報等について、確認・調整等を行う。

## <全面緊急事態で天候が回復した場合>



## 5. PAZ内の全面緊急事態 における対応

### ＜対応のポイント＞

1. 自家用車による避難ができない住民の移動手段(バス等)を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先施設の受入れ体制を整えること。
3. 安定ヨウ素剤の服用等を指示し、避難を開始すること。



# PAZ内の住民の避難先及び避難住民数【P】

- 東通村のPAZ内(小田野沢地区、老部地区、白糠地区)の住民については、自家用車で避難できる住民は、自家用車によりあらかじめ定められた青森市の避難先(新青森県総合運動公園又は青森工業高校)に避難。
- 自家用車での避難が困難な住民は、徒歩等で一時集合場所に集まり、バスで避難先へ避難。【P】
- 避難先については、村の広報誌や訓練等を通じて対象となる住民に周知。

PAZ内地区	避難対象者※1	バス避難者数	自家用車避難者数
小田野沢地区	825人	●●人	●●人
老部地区	823人	●●人	●●人
白糠地区	1,146人	●●人	●●人
合計	2,794人	●●人	●●人

避難元: 東通村

徒歩等

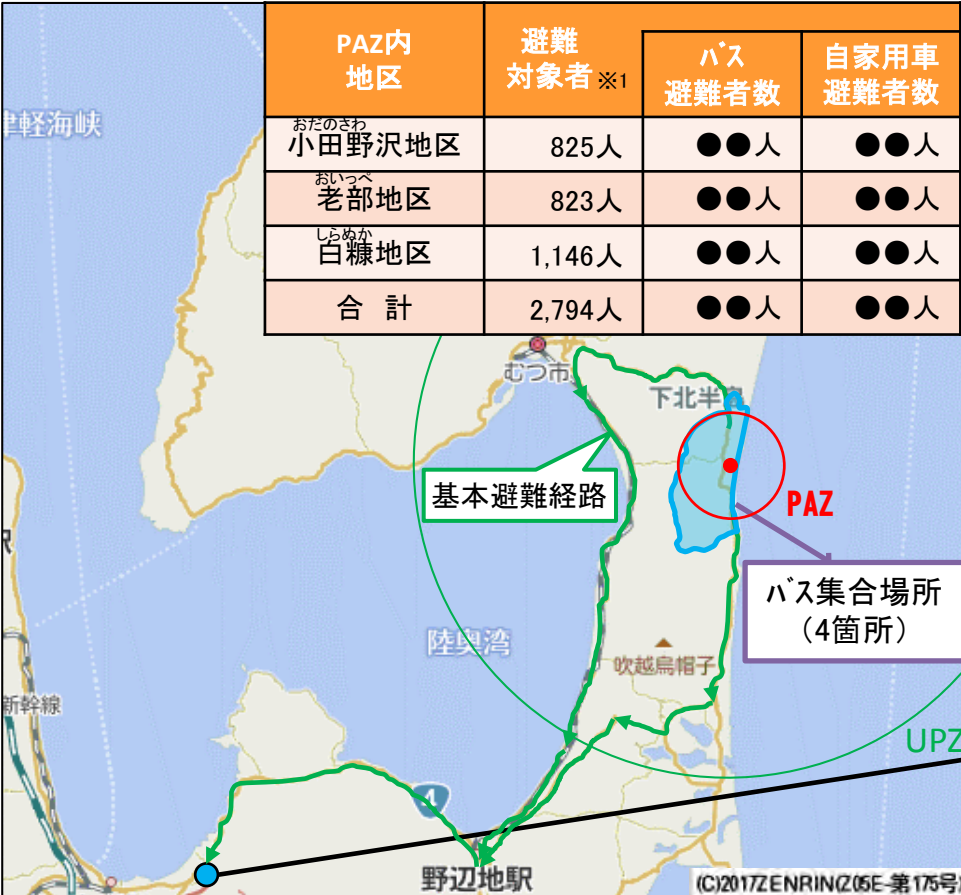
一時集合場所: 4箇所

- 小田野沢地区学習等供用センター ※2
- 東通村南地区基幹集落センター
- いさりび館 ※2
- 白糠地区避難施設

バス

避難先【青森市】: 新青森県総合運動公園(2,560人)  
青森工業高校(580人)

( )は収容可能人数



※1 避難対象者数は、PAZ内住民数から施設敷地緊急事態で避難する住民を差引いた数字  
 ※2 津波警報の発令中は使用せず、小田野沢地区は「東京電力新小田野沢敷地」に変更し、白糠地区は「白糠地区避難施設」に集約

- PAZ内において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約●●人分:バス●台であり、青森県は「災害時等におけるバスによる人員等の輸送に関する協定書」に基づき、青森県バス協会に住民避難用バスを要請。**【P】**
- 青森県バス協会は、同協定書に基づく青森県からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。**【P】**

＜全面緊急事態で必要となる輸送能力＞

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
バスにより避難する住民	●●人	●台	一時集合場所にて乗車 1台あたり40人の乗車を想定 【資料P36】

※ 数字は現段階で東通村が把握している暫定値 ひがしどおりむら

＜全面緊急事態での輸送能力の確保＞

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 必要車両台数		●台	
(B) 確保車両台数		計●台以上	
確保先	青森県バス協会	●台以上	PAZ・UPZ市町村が所在する地域のバス会社が保有するバス車両(貸切)総数182台 <b>【P】</b>

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合など、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)が必要に応じ支援を実施

# PAZ内におけるバス避難の住民の数【P】

- 青森県及び東通村によるアンケート調査の結果、PAZ内におけるバス避難の住民は約●●人。【P】
- バスで避難する住民は、東通村が設置する4箇所ひがしどおりむらの一時集合場所に徒歩等で集まり、青森県が手配したバスにより、避難先である青森市へ避難。【P】



一時集合場所	バス 必要台数	
<small>おだのさわ</small> 小田野沢地区 学習等供用センター	●人	●台
<small>ひがしどおりむら</small> 東通村南地区 基幹集落センター	●人	●台
いさりび館	●人	●台 <sup>※2</sup>
<small>しらぬか</small> 白糠地区避難施設		
合計:4箇所	●●人	●台

- ※1 数字は現段階で東通村が把握している暫定値
- ※2 いさりび館、白糠地区避難施設しらぬかのそれぞれで必要となるバスの台数については、配置職員からの連絡に基づき配車